

平成 23 年 10 月 21 日

本校保護者の皆様

立川市立第七小学校
校長 記野 邦彦

立川市立第七小学校 授業改善推進プランについて

平成 23 年 7 月 5 日に東京都公立小学校の 5 年生を対象に『平成 23 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」』が実施されました。調査結果を分析し、日常的な教育活動がどのように生かさせているのか、本校の教育活動について細部にわたって再点検を行い、授業改善推進プランを作成いたしました。ここに報告いたします。

目指す児童像について

1 本校の課題

現在、七小における学習指導の共通課題は「言語による表現力」及び「話し合い活動による自己表現力」の育成です。

これは、本校児童の一人一人が自ら考え、自信をもって表現できるようになることが重要と考え、平成 19 年度から校内研究のテーマとして決定したことです。

一般的に人間は、言語によって“思考” “判断” “表現” すると言われていきます。つまり言語によって表現することは、考える過程の最終段階でもあり、自分の意見や思いを相手に伝えることです。これまでの東京都や文部科学省の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や「全国学力・学習状況調査」の個人票を分析すると、国語の正答率の高い児童は、算数・社会・理科の正答率も高いことが分かります。しかし、国語の正答率が低い児童はその逆の傾向がみられ、日常の授業において各教科の習熟の過程に不十分な面が多々あることが分かってきました。

今年度から完全実施となっている学習指導要領において、全ての学習活動で言語活動を充実させることが求められております。

このようなことから、本校は学力向上推進の基本に言語力の向上、特に「表現力を高めること」を設定いたしました。

2 これまでの取り組み

本校は平成 18 年度から特色ある教育課程編成研究校として国語と算数の知識・技能の習熟を図るための研究を進めてきました。

落ち着いた朝の学校生活をスタートするために、8 時 15 分から 15 分間週 3 回、朝読書を行っています。また毎朝 8 時 40 分から 10 分間、スキルアップタイムを週 5 回実践し、以下の 4 点を学習に取り入れています。

音読と暗唱の重視

漢字の読みの徹底した反復練習

視写・聴写の学習活動の導入

四則計算の習熟

平成22・23年度は、この週時間割を継続して実施しながら、国語科の学習を中心に、校内研究のテーマを次のように設定しました。

『一人一人が自らの考えをもち、豊かに表現し合う児童の育成』

～話し合い活動を通して～

この実現に向け、現在も研究を進めています。

平成23年度 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果について

1 学力調査について

調査区分 国語・社会・算数・理科の4教科について、「A 教科の内容」と「B 読み解く力に関する内容」の側面から調査を行いました。

A 教科の内容

学習指導要領に示されている目標及び内容について、各教科の4項目（関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解）から定着状況を図るものとなっています。

B 読み解く力に関する内容

必要な情報を正確に「取り出す力」、比較・関連付けて「読み取る力」、取り出し、読み取ったことから「解決する力」の定着状況を図るものとなっています。

結果について

本校5年生と東京都の各領域、項目別の正答率(%)の結果は以下の通りでした。

【A 教科の内容】

| 教科 | 関心・意欲・態度 | | 思考・判断・表現 話す・聞く | | 技能 書く | | 知識・理解 言語 | | 合計 | |
|----|----------|------|-------------------|------|----------|------|-------------|------|------|------|
| | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 |
| 国語 | 97.4 | 95.3 | 98.7 | 94.1 | 65.8 | 60.4 | 60.2 | 62.7 | 72.7 | 72.1 |
| 社会 | 97.4 | 94.3 | 81.6 | 72.9 | 71.1 | 66.4 | 67.1 | 59.4 | 77.4 | 71.5 |
| 算数 | 90.8 | 90.6 | 64.2 | 62.9 | 72.2 | 69.8 | 78.2 | 77.7 | 74.6 | 73.4 |
| 理科 | 94.7 | 90.8 | 52.6 | 57.6 | 60.5 | 61.2 | 70.0 | 63.6 | 67.6 | 67.1 |

【 B 読み解く力に関する内容 】

| 教科 | 取り出す力 | | 読み取る力 | | 解決する力 | | 合 計 | |
|----|-------|------|-------|------|-------|------|------|------|
| | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 | 本校 | 東京都 |
| 国語 | 84.2 | 79.7 | 69.7 | 67.9 | 43.4 | 40.2 | 65.8 | 62.6 |
| 社会 | 34.2 | 42.5 | 48.7 | 46.7 | 47.4 | 55.3 | 43.4 | 48.1 |
| 算数 | 67.1 | 65.8 | 56.1 | 48.9 | 35.5 | 38.1 | 53.4 | 50.6 |
| 理科 | 69.7 | 66.8 | 63.2 | 62.1 | 76.3 | 69.7 | 69.7 | 66.2 |
| 合計 | 63.8 | 63.7 | 59.1 | 56.4 | 50.7 | 50.8 | | |

網掛けは5%以上の差が生じているもの

(水色の部分は本校のほうが上回っており、黄色の部分は下回っている)

考察

本調査は、国語・社会・算数・理科の学習定着状況、各教科の読み解く力の2側面から捉えようとしたものであります。その結果は、学習指導要領の観点からも児童に身に付けさせたい学力であります。また、読み解く力については、問題文や図、表などから必要な情報を正確に取り出し、理解し、解決することができるかという学習の仕方にも関わる大切な力となります。このことを前提にして、次のような分析結果を得られました。

- ・平均正答率は上の表の通りであります。教科の内容については東京都の平均正答率を大きく上回っている項目が多く見られます。関心・意欲・態度については、全てに上回っており、どの教科も学習への取り組む姿勢が養われていると捉えることができます。
- ・読み取る力に関する内容では、大きく下回っている項目が社会科の「取り出す力」と「解決する力」に見られます。また、算数と理科では大きく上回っている項目もあり、学習の定着や自ら問題解決を図っていく力を身に付けるような指導の工夫が必要です。
- ・個人別の正答率には個人差が大きかったところがあります。本校は母数が少ないため、平均では水準以上の項目もありますが、正答率が十分ではない児童への指導が十分ではなかったと考えられ、今後の課題となります。